

紀ノ川左岸における水利と村落

福田アジオ

- 一 水利と村落
二 水利施設と水利慣行

論文要旨

中世にあっては隅田庄として広域的な地域を形成していたこの地方は、近世に入ると支配単位としてはごく小さい規模の村となった。近世以降も旧隅田庄の範域の村落が隅田八幡を氏神とし、一つの氏子圏を形成し、祭祀の面では一定の意味を有しながら、支配制度としてはほとんど無意味なものとなった。それは単なる支配単位の問題ではなく、この地方の村落のあり方を示しているものと予想される。本稿は中世から近世への村落展開の特質を水利秩序に関する民俗との関連で把握し検討しようとする。

紀ノ川の左右両岸には上下二段の河岸段丘が発達している。そして、紀ノ川へ流れ込む小河川が比較的等しい距離をおいて何本もあり、その谷が段丘を切っている。左岸の場合、南は山、北は紀ノ川、そして東西は小河川の谷によつて区切られた範囲に上下二つの段丘があるのが原則である。橋本市赤塚も、そのような区画された範囲に展開する村落であり、段丘面を水田に開発した、基本的に稲作農村である。

赤塚の水利秩序は一つではなく、大きく二つに分けられる。中溝・下溝と上溝・村池の相連である。中溝・下溝が灌漑する区域は紀ノ川に近い下位段丘であり、上溝および村池と呼ばれる溜池からの水は上位段丘を灌漑してい

- 三 水利秩序の歴史的展開
四 近世的村落秩序の完成と水利

る。この明確な灌漑区域の相違は、その耕地の開発の歴史に対応して用水が設けられたものと考えてよいことを示している。各種の材料から判断して、上位段丘が下位の段丘よりも早く開発されたものであることは間違いないであろう。したがって、水利施設も上溝の方が、中溝・下溝よりも古いと考えてよい。このことに深く関連するのが、それぞれの水利組織の運営方式である。上溝・村池は固定的なバンドウ制によつて維持管理され、中溝・下溝は一年交替の順番制で運営されている。

上位段丘を灌漑する水利組織も近世的な村落秩序に規定されている。一七世紀後半に水利と祭祀の二つにおいて、中世以来の百姓の特権化を伴いつつ近世的な秩序は確定した。それに対して、下位段丘の新しい水田を灌漑する水利組織では、家々の交替制で行っている。この中溝・下溝の運営方式こそが赤塚の近世的な村落秩序の完成を示すものであろう。

小河川によつて区画された小規模な範囲が、近世成立期に支配単位としての村として認定されたのは、広域的な中世的な水利秩序が解体し、内部に完結する百姓の管理する水利体系が形成されたことが基礎にあったと言えよう。赤塚はその一つの事例である。